

## 忘れられない出会い：日本オマーンクラブでの異文化交流会を振り返って

京都大学大学院博士課程 セイフ・アル・アムリ

今年、19名のオマーン人学生と16名の日本オマーンクラブ会員が東京の成願寺に集うという記念すべき節目を迎えました。入念に計画され、豊かな文化体験に満ちたこのプログラムは、学び、気配り、おもてなしを通じて異文化理解を探求する稀有な機会を提供してくれました。

この恒例の交流会は2013年から続いていますが、私自身や他の参加者の大半にとっては初めての参加で唯一無二の忘れがたい体験となり、生涯忘れられないものとなりました。

中野坂上駅から徒歩数分にある静寂な成願寺は意義ある交流に最適な環境を作り出していました。11月22日の到着時から、この集いが学術交流を超えたものとなることは明らかでした。

冒頭の紹介により多様な視点、個人のストーリー、新たな繋がりの方が創出され、相互尊重と共有された開かれた姿勢の重要性を浮き彫りにしました。

写真1：東京の成願寺

参加者は禅寺での礼儀作法ガイドを受け取り、気配りと文化的配慮の基が示されました。多くの留学生にとってこうした伝統を学ぶのは初めての経験であり、彼らの熱意がこの体験を有意義なものにしようとする集団的な決意を裏付けていました。

午後3時45分からの茶道体験は大きな見どころでした。この伝統的な日本の礼儀作法は、調和と静寂を体現する芸術形式を参加者に紹介しました。整然とした動作と静かな雰囲気は、一日の活動の中で心を落ち着かせるひとときを与えてくれました。

写真2：茶会

夜は夕食のためキャラバンサライ・パオまでグループで歩きました。笑い声と温かいもてなし、そして活発な会話が、一日を通して築かれた絆をさらに深めました。

写真3：キャラバンサライ・パオでの夕食

二日目は午前7時からの座禅で始まりました——禅瞑想の入門です。数人にとっては難しかったものの、静寂と内省をもって朝を迎える貴重な機会となりました。朝食後、荷造りと清掃（共有空間への敬意を象徴する禅の実践）を終え、一行は寺院の住職に感謝を伝えるため挨拶した後、赤坂離宮へ向かいました。壮麗な建築と外交的意義で知られる国賓館への訪問は、プログラムに力強い文化的側面を加えました。美しく手入れされた庭園に囲まれ、参加者は日本の文化遺産の一端をまた一つ体験しました。

正午の昼食をもってイベントは終了し、参加者は共有した有意義な時間を振り返る最後の機会を得ました。

写真4：国立迎賓館

このプログラムは2013年から毎年開催されていますが、初めて参加した私にとって非常に特別で忘れられない体験となりました。

写真5：昼食（ハラールラーメン）

## 私の個人的な感想

交流会は本当に初めての体験で、一瞬一瞬が素晴らしかったです。日本の文化を間近で学び、特に社会的慣習や人々が敬意と温かさをもって関わる方法において、オマーンと日本の類似点と相違点を発見しました。

オマーン人と日本人の多くの友人ができ、どの活動も私に新たな気づきをくれました。

私にとってユニークで忘れられない体験でした。料理も美味しく、この文化の旅の喜びをさらに深めてくれました。

主催者の皆様、特に享子さんの素晴らしいご尽力に感謝申し上げます。

## 交流会詳細とプログラムスケジュール

会場：多宝山成願寺（東京都中野区本町2-26-6）

最寄駅：東京メトロ丸の内線中野坂上下車（出口1）徒歩5分

11 月 22 日

13:00－チェックイン、プログラム紹介、ディスカッション、コーヒースタイル

15:15－ディスカッションのまとめとチェックアウト

15:45－茶道体験

17:45－宿泊施設へ荷物移動

18:10－キャラバン・サライ・パオへ徒歩移動

18:30－夕食

11 月 23 日

7:00－座禅、朝食、荷造り、清掃

9:00－寺住職に挨拶、鍵返却

赤坂離宮・庭園見学

12:00－昼食、プログラム終了